

# 原油市場展望

2022年7月

 株式会社 日本総合研究所

調査部 マクロ経済研究センター

<https://www.jri.co.jp/report/medium/oil/>

◆本資料は2022年7月5日時点で利用可能な情報をもとに作成しています。

◆ご照会先：調査部 副主任研究員 松田健太郎 (Tel:080-4176-4439 Mail:matsuda.kentaro@jri.co.jp)

◆日本総研・調査部の「経済・政策情報メールマガジン」は下記URLから登録できます(右側QRコードからもアクセスできます)。新着レポートの概要のほか、最新の経済指標・イベントなどに対するコメントや研究員のコラムなどを随時お届け致します。

<https://www.jri.co.jp/company/business/research/mailmagazine/form/>

本資料は、情報提供を目的に作成されたものであり、何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。本資料は、作成日時時点で弊社が一般に信頼出来ると思われる資料に基づいて作成されたものですが、情報の正確性・完全性を保証するものではありません。また、情報の内容は、経済情勢等の変化により変更されることがあります。本資料の情報に基づき起因してご閲覧者様及び第三者に損害が発生したとしても執筆者、執筆にあたっての取材先及び弊社は一切責任を負わないものとします。

<メルマガ> <Twitter>

経済・政策情報メールマガジン



経済・政策情報メールマガジン

日本総研調査部Twitter 日本



日本総研調査部Twitter 日本

# 原油価格見通し：高値圏で振れの大きい展開

## ◆現状：100ドル台を中心に上下

6月のWTI原油先物価格は、上旬に、EUによるロシア産原油の禁輸措置の導入で供給不足が強まるとの見方などから、一時120ドル台前半へ上昇。

中旬以降は、中国の一部都市での新型コロナウイルスの感染再拡大や、世界的な景気減速懸念からエネルギー需要が減少するとの見方が強まり、100ドル台前半へ下落。

月末にかけては、リビアやエクアドルでの政情不安から原油供給への懸念が再び高まり、110ドル台へ反発。

## ◆投機筋の買い越し幅は縮小

投機筋の原油先物の買い越し幅は縮小傾向。世界的な金融引き締めに伴う景気減速が意識されるなか、投機筋は買いポジションを大幅に縮小。

## ◆見通し：高値圏でボラタイルな展開

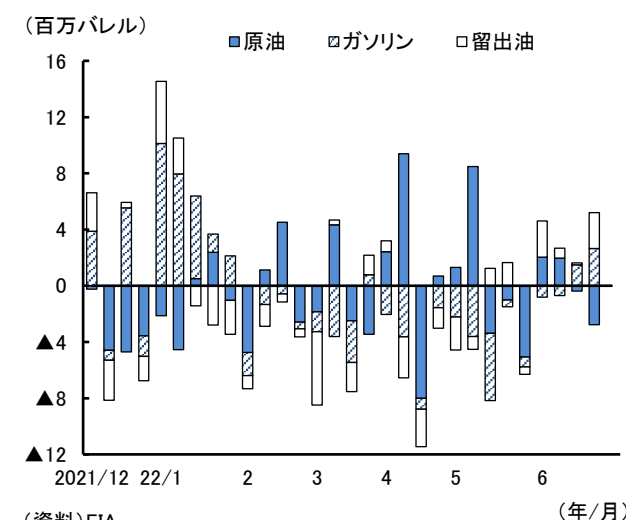
先行きを展望すると、原油価格は高値圏で上下に振れやすい展開が続く見込み。主要中央銀行による金融引き締めを通じた世界的な景気減速懸念から、原油需要の減少が意識されやすいものの、①主要産油国の増産ペースは緩やかにとどまること、②ロシア産原油の供給を巡る不透明感、などから供給面の不安も根強く、強弱の材料が交錯しやすい地合いが続く見込み。

原油価格と株価・為替レート



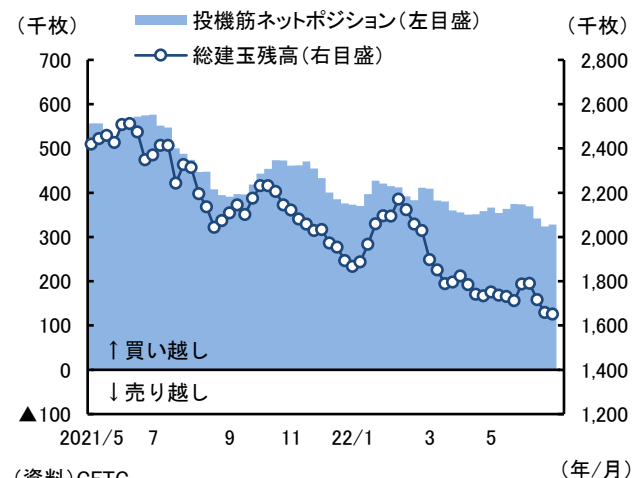
(資料) Bloomberg L.P.、FRB

米国の原油・石油製品在庫(前週差)



(資料) EIA

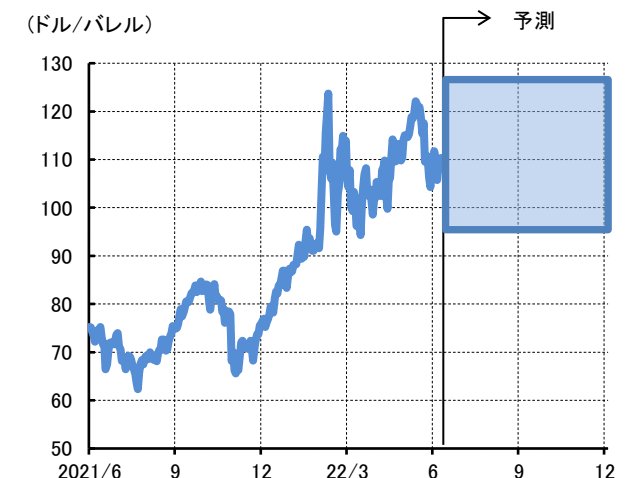
WTI原油先物ポジション



(資料) CFTC

(注) 建玉単位の1枚は1,000バレル。

WTI原油先物価格見通し



(資料) Bloomberg L.P.

# トピック：主要産油国による大幅な供給増は見込み薄

## ◆シェールオイル増産は緩やか

米国ではガソリン価格の高騰に歯止めがかからないなか、バイデン大統領が米シェール企業などに増産を要請。米国のシェールオイル生産の先行指標となる石油リグ稼働数は持ち直しが続いているものの、大幅な増産は見込めない水準。

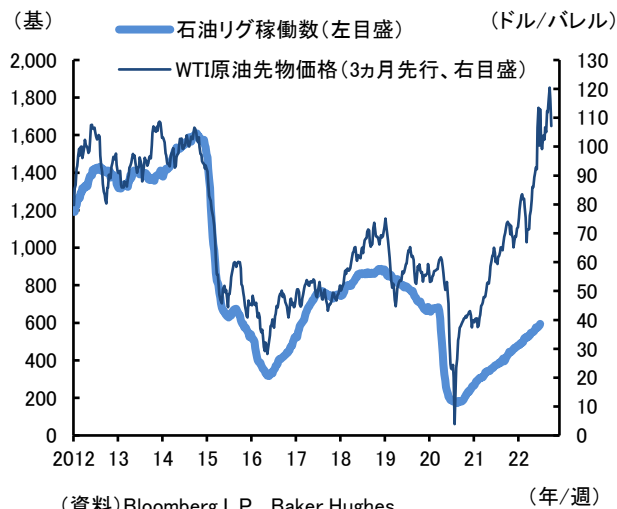
シェールオイル増産の抑制要因として、高インフレに伴うコスト上昇や供給制約が指摘可能。ダラス連銀が石油関連企業に対して行った調査によると、探索・開発費や油井維持のためのリース費用が大幅に上昇していることに加えて、資材などの納期は長期化。さらに、9割以上の企業が供給制約によりネガティブな影響を受けていると回答したほか、7割弱の企業が解消には1年以上かかると予想。

そのため、供給制約の早期解消は見込めず、当面の米国原油生産の拡大ペースは緩やかとなる公算。多くの企業が22年中の米国の原油増産量は日量100万バレル以下にとどまると予想。

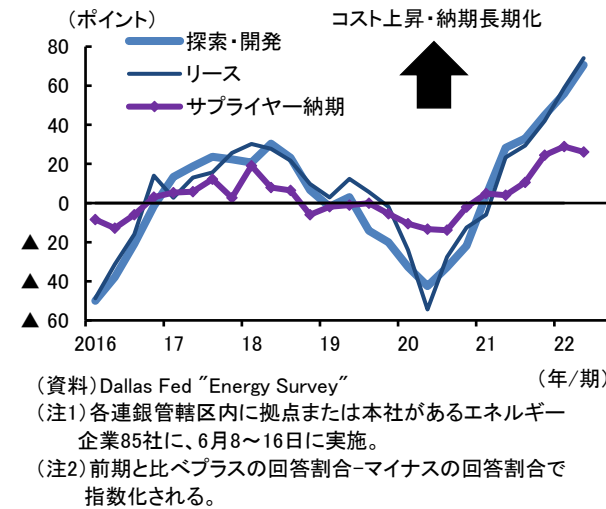
## ◆OPECプラスは増産未達が長期化

米国内での大幅な増産に期待できないなか、バイデン大統領は7月中旬のサウジアラビアへの訪問で増産要請を強める公算大。OPECプラスは、6月30日の会合で7～8月の増産計画を維持。もっとも、制裁による禁輸措置の影響で減少したロシアを除いても、OPEC諸国では増産目標の未達が続く状況であり、大幅な生産拡大は難しい可能性。

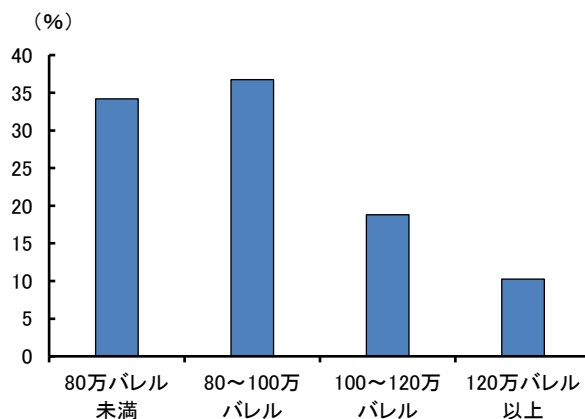
## 原油価格と米国の石油掘削設備(リグ)稼働数



## 米エネルギー企業のコスト・納期関連指数



## 米エネルギー企業が見込む22年の米国原油増産量



## OPECプラスの増産達成率

